

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 1月 4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2779500673
法人名	ジャパンケアネットサービス株式会社
事業所名	グループホーム ミズナス
所在地	大阪府阪南市鳥取475-1 (電話) 072-473-8801

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成20年12月24日
評価確定日	平成21年2月9日

## 【情報提供票より】(平成 20年 11月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 12月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	18 人
常勤	8人
非常勤	10人
常勤換算	16人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	32,000 円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(400,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1500 円	

## (4) 利用者の概要( 11月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	9 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	79 歳	最高	96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	羽原病院、しが歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅から近く、山と海が見える場所に立地しています。「上級のおもてなし」をケアに取り入れられ、美味しい食事の提供と、天井が高く広々とした開放感がある空間を整えられています。利用者は趣味を楽しまれたり、生活歴を活かした役割を持って生活され、一階デイサービスの大浴場での入浴や多彩な行事に参加する等、楽しみの多い毎日を送られています。ホームでは自立支援を第一に、できる事には時間がかかり、リスクが伴っていても自分でして頂く事を徹底しています。その結果、入居前よりも身体機能が向上し、要介護度が下がった方もおられます。また、職員の離職が少なく、利用者とは信頼関係が構築されていて、明るい雰囲気を感じられます。毎日4回行われるミーティングでは、気付きや意見を出し合い、情報を共有しながらより良いケアに取り組まれています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での改善点である職員の研修受講の件は、少しずつですが、受講できる体制を作っています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、常勤の職員に意見を聞き、それをまとめて記入しています。評価後は全職員に結果を報告して話し合う予定です。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族、自治会役員、阪南市職員、法人役員、管理者が参加する運営推進会議は、年に2回開催されています。ホームからは行事報告をしたり、参加者からは意見を頂いたり、地域の情報を得る場となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時や運営推進会議では積極的に意見を聞いて、できる事にはすぐに対応しています。言いにくそうにされている方には、ホーム側から働きかけています。相談窓口は配布文書に明記しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会長の訪問があり、地域の情報を頂いています。行事の誘いも頂いていますが、実際には職員体制の都合もあり参加は少ない状況です。昔からの地域行事である祭りやぐらは、ホームの前まで来てくれ、外出時には、近所の方と挨拶を交わしたり、買い物は、近所の店を利用し、顔なじみの関係ができています。小学校や幼稚園児がホームに遊びに来てくれて交流を持っています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしい生活をして頂く為に、当たり前のことをするという念頭に、職員間で話し合い、具体的に5つの項目に分けた理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲げている。毎日4回行われる職員ミーティングでは、常に話し合い共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長がホームに来てくれていて、地域の情報を頂いている。行事の誘いも頂いているが、実際には職員体制の都合もあり参加は少ない。昔からの地域行事である祭りやぐらは、ホームの前まで来てくれる。外出時には、近所の方と挨拶を交わし、顔なじみの関係ができています。小学校や幼稚園児がホームに遊びに来てくれ交流を持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価での改善点である、職員の研修受講の件は、少しずつであるが、受講できる体制を作っている。今回の自己評価は、常勤の職員に意見を聞き、それをまとめて記入している。評価後は全職員に結果を報告して話し合う予定である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、自治会役員、阪南市職員、法人役員、管理者が参加する運営推進会議は、年に2回開催されている。ホームからは行事報告をしたり、参加者からは意見や地域の情報を得る場となっている。	○	運営推進会議は、定期的開催されることが期待される。議事録には話し合った内容や得られた意見なども記録されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	阪南市の職員は運営推進会議に参加してくれている。その場で情報をもらい、ケアに活かしている。市からの介護相談員を受け入れ、勉強会にも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、直接話をして暮らしぶりを伝えている。毎月、請求書と預かり金の収支報告と一緒に、利用者の行事の際の写真を載せた便りを送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や運営推進会議では積極的に意見を聞いている。言いにくそうにされている方には、ホーム側から働きかけている。相談窓口は配布文書に明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者は少なく馴染みの関係ができています。管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にしている。職員の悩み事の相談にはリーダーが対応している。職員の採用時には、まず利用者とのコミュニケーションから始めて、その人を理解してからケアするようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員体制の都合もあり、外部の研修参加数は少ないが、受講後には、ホームで伝達研修を必ず行い職員間で共有を図っている。ホーム内では、事例について話し合う機会を多く持ち、介護の現状を把握し職員の意識向上につなげている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の職員研修を受け入れ交流を図っている。現在は地域の事業同士の連絡会等はないが、今後は、交換研修等の機会があれば参加したいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず併設のデイサービスを利用して頂き、ホームにも遊びに来てもらいながら、昼食を一緒にしたり、リビングで他利用者ふれあってホームの雰囲気に徐々に馴染めるように、長い時間をかけて、入居につないでいる。空き室がある場合は、ショートステイとしての利用も考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴を把握し、得意とする事やできる事等の自立を支援しながら、共に支えあう関係作りができている。一緒に生活する中で、家事や畑仕事等、経験から教えていただく事が多くある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、利用者とのかわりの中で信頼関係を築き、思いを見逃す事がないようにしている。困難な方には、家族から意向や希望を聞きながら把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式にてアセスメントを行い、課題を引き出し、介護計画を作成している。毎日のミーティングや、毎月のカンファレンスで、職員の意見を出し合い、家族の思いも取り入れた計画を立てている。計画は家族に同意を頂き交付している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、カンファレンスを開催し、職員間での話し合いをもとに6ヶ月に1度、介護計画を見直している。毎日のミーティングでも計画のモニタリングをかねて、評価につなげている。状態の変化にはすぐに見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスには自由に行き来できる。家族の状況に応じての買い物付き添い、美容院への送迎等、利用者の希望に応じて柔軟な支援を行っている。訪問美容も利用している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については入居時に希望を聞いている。提携医からは2週間に1回往診があり、24時間相談や受診ができる。また、デイサービスの看護師からの協力もあり、職員に看護師が配置されており医療面では安心の体制が整っている。歯科医、歯科衛生士の訪問も週に1回ある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とホームでの出来ることについての話し合いを持っている。実際にターミナルケアを経験したことがあり、その時の状況に応じて家族、医師と方向性を決めて、協力しながら取り組む方針である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	信頼関係が築けているが、親しき仲にも言葉使いには気を付けている。個人情報に関する記録物の書類は、事務所の書庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースやリズムを大切にケアしている。時間がかかっても、できることはして頂き、自立を支援している。職員の慌ただしい動きで、利用者のゆったりペースが壊れないように心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食と夕食は調理士が作る美味しい食事を提供している。日曜日には、利用者ができることに携わってもらいながら調理から後片付けまで一緒にしている。職員も同じ食卓を囲んで楽しく食事時間を過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中、デイサービスでの大浴場で、仲良しの利用者同士で入浴している。どの利用者也週に2~3回は入っているが、拒否される方には、声掛けのタイミングや工夫で入浴してもらっている。ホームのお風呂は皮膚疾患のある方や、一人での入浴を希望される方が入っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日のレクリエーション計画があり、楽しみの時間を作っている。習字や計算ドリル、折り紙等、趣味を楽しまれている方や家事での役割で力を発揮される方等、一人ひとりに応じて支援している。レクリエーション参加が困難な方には、個別で共感しながら話を聞いている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて散歩や買い物に出かけている。喫茶店でお茶を飲んだり、季節ごとの行事では車で遠出している。広いベランダがあり、外気に触れながら過ごす事もできる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関は鍵はかけていないが、利用者の安全の為に、エレベーターはロックされている。ベランダへの出入りは自由である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署立会いの下、館内全体で避難訓練をしている。ホーム独自でも、年に2回様々な場面を想定して、職員だけで避難訓練をしているが、地域との協力はできていない。	○	運営推進会議等を利用して、地域の方の協力を働きかける事が期待される。まずは、議題として話をするきっかけを作られてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量は把握している。献立は、利用者の希望を聞きながら職員が立てている。個々のアレルギーや好き嫌いも把握して献立を工夫している。状態に合わせて、量の調節をしたり、キザミにしたりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関とベランダの通路には、一人でも利用者同士でもゆっくりと過ごせるように椅子が置いてある。ホーム内は天井が高く、各ユニット間は仕切りがない為広々とした空間で、季節の飾り付けが施されている。畳コーナーもあり、足を伸ばして寛ぐ事ができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者ひとり一人手作りの住所が表記しており、中は、壁紙やカーテンがひとつずつ色が違い、場所間違いを防止している。入居前の生活を考慮して畳かフローリングを選択できる。景色が山側と海側に分かれていて、それぞれに馴染みのものを持ち込まれ、落ち付く居室を作られている。		